

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	電気製作講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA＆レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴：13年 商業用レコーディングスタジオに就職し、様々なアーティストのレコーディングに携わった後、フリーランスとして活躍。レコーディングエンジニアとして音楽だけでなく、ナレーション、アフレコ等、多岐に渡る仕事に携わっている。				
授業概要					
電気について基礎から学ぶ。 PAやレコーディングの現場で使用されている各ケーブルの製作方法を学ぶ。					
到達目標					
電気についての基礎知識の修得、半田ごての技術習得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	工具説明 ハンダの必要性の説明 ハンダの溶かし方、当て方の基本練習
【前期】 6～10回目	リード線をラグ板に接合してハンダ付け テスターの使い方について ケーブルの構造説明
【前期】 11～15回目	バランス・アンバランスについて アンバランスケーブルの線材加工練習 アンバランスケーブル予備ハンダ練習
【前期】 16～20回目	アンバランスケーブル接合練習 TSフォーンの製作
【後期】 21～24回目	バランスケーブルの線材加工練習 バランスケーブルの予備ハンダ練習 バランスケーブルの接合練習
【後期】 25～28回目	XLRケーブル(オス側)の製作 XLRケーブル(メス側)の製作
【後期】 29～32回目	TRSフォーンケーブルの製作 RCAケーブルの製作
【後期】 33～36回目	スピーカーケーブルの構造 スピーカーケーブルの製作(スピコン)
【後期】 37～40回目	スピーカーケーブルの製作(TSフォン) AM/FMラジオ製作
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	電気の基礎やケーブルの構造を実際に自分で製作しながら学んでいきましょう。同時に現場で求められる半田ごての技術習得を目指します。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	エンタテイメント業界応用講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験：23年。 ポストプロダクションにてアシスタントオペレーターを経験後、プロダクションや音楽出版社にてマネジメント、ファンクラブ、宣伝、営業、デスク、経理と様々な業務に従事。メジャーからインディーズ・シーンまで、幅広い人脈を活かして活動中。				
授業概要					
音楽業界の構造を学び、ライブ制作を行うことでサウンドエンジニアとしての役割を学ぶ。					
到達目標					
レコーディングエンジニアとして必要なこと、求められることの理解。 コミュニケーション能力の向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	就職活動における自己紹介の仕方
【前期】 3～8回目	レコード会社について プロダクションについて
【前期】 9～13回目	WEB制作について
【前期】 14～20回目	音源制作の流れについて
【後期】 21～24回目	ライブ制作の流れについて
【後期】 25～28回目	イベントのコセプト決め
【後期】 29～32回目	アーティストブッキング
【後期】 33～36回目	イベントに関わる資料作成
【後期】 37～40回目	ライブ実習
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	サウンドエンジニアの仕事を業界全体の視点から学びましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	デジタル機材講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA＆レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴：25年 レコーディングスタジオで7年間アシスタントとして多くのことを学び、その後レコーディングエンジニアだけではなく、5000人規模のライブ録音や50人規模のライブPAなど音を操る場で幅広く活動。				
授業概要					
パソコンの内部構造の知識を中心に、オペレートに必要な音響知識を学ぶ。					
到達目標					
パソコンの内部構造の理解。 音響知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	ノートまたはipadのまとめ方 コンプレッサーの各セクションの説明と使い方の講義 ゲートの各セクションの説明と使い方の講義
【前期】 6～10回目	イコライザーの使い方、周波数ポイントについて タイムコード、ワードクロックのシステムについて マニピュレーターの仕事について
【前期】 11～15回目	スタジオにおけるHDDの階層について PCのCPU/Memoryについて DAWにおける、HardWareBufferSizeについて
【前期】 16～20回目	DAWにおける、SamplingRateについて HDDのオーディオデータ容量の計算 MP3の圧縮技術と音質の違いの聴き比べ
【後期】 21～24回目	DAWの購入における選び方について（各メーカーの特徴など、価格帯など） 音響用語について 舞台用語について
【後期】 25～28回目	メジャーアーティストによるボーカル録音（TV番組にて） ライブレコーディングについて MADIシステムについて（DANTE方式についても）
【後期】 29～32回目	収録レベルについて MASTERINGについてとやり方 ラウドネスメーターについて
【後期】 33～36回目	サラウンド方式について マイクキングにおけるステレオ方式について グループについて（YMOの素材を使って）
【後期】 37～40回目	音効、効果音について（DVD：ラダヲの時間） 「いい音で聴くには」をテーマにオーディオ機器の講義 歴代のオリコンチャートについて（音の作り方とジャンルの遍歴について）
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	デジタルについて一から学びなおし、デジタル機材について理解を深めていきましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ポストプロダクション講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴：20年 レコーディングスタジオからキャリアをスタートさせ、現在は主に民放・BSを中心に旅・バラエティ・音楽番組・各種CMにおいてMA及び選曲・音響効果を担当している。				
授業概要					
映像編集・MA作業について解説し、映像作品が出来上がるまでの一連の流れを学ぶ。					
到達目標					
ポストプロダクションに対する理解を深め、就職の幅を広げる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	映像制作の流れ 映像制作に携わる人々(職種)紹介 テレビ産業の成り立ち
【前期】 6～10回目	プロデューサーとディレクターの仕事内容 テレビ局について（ネットワーク・独立U局・系列局） カメラの高さとアングルについて
【前期】 11～15回目	照明機材紹介～ライトポジション MAの作業の流れ 納品の系態・ルール
【前期】 16～20回目	リニア編集とノンリニア編集 キャプチャーカード・ボックスとは？
【後期】 21～24回目	ビデオ・フォーマット（SDとHD） タイムコードについて 走査線について
【後期】 25～28回目	モニター（ディスプレイ）について 液晶・有機EL等 液晶の表面処理（グレア・ノングレア） 映像の入出力端子
【後期】 29～32回目	PCの入出力端子 USBの電源供給方式
【後期】 33～36回目	HDDのフォーマット形式 音声の入出力端子
【後期】 37～40回目	PCオーディオについて（ハイレゾ・圧縮音源の種類・ネットワークオーディオ等） インターネット放送・配信について
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年次に学んだレコーディングを活かし、ポストプロダクションについて学んでいきます。映像制作・映像編集の作業工程など見識を広げ就職活動に役立てましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	Pro Tools講座Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA＆レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経歴：25年 レコーディングスタジオで7年間アシスタントとして多くのことを学び、その後レコーディングエンジニアだけではなく、5000人規模のライブ録音や50人規模のライブPAなど音を操る場で幅広く活動。				
授業概要					
レコーディングスタジオでのProToolsの操作方法等についての学習。					
到達目標					
ProToolsにおける編集操作、バランスの取り方、プラグインの使い方などの習得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	1年次に修得した知識の復習 オーディオインターフェイスについて セッション、ファイル管理について
【前期】 6～10回目	編集ツールの使用方法 ミックスツールの使用方法 クリップゲインの操作方法
【前期】 11～15回目	テンポチェンジ、拍子チェンジの設定 エラスティックオーディオの設定 オーディオ録音の設定
【前期】 16～20回目	イコライザーの説明 コンプレッサーの説明 モジュレーションの説明
【後期】 21～24回目	歪み系の説明 ピッチの修正 マキシマイザーの説明
【後期】 25～28回目	オートメーションの説明 オートメーションのボリューム機能 オートメーションのプラグイン機能
【後期】 29～32回目	ミックスバランスについて バウンス設定について マスタリングについて、プラグインのメーカー紹介
【後期】 33～36回目	音圧のかけ方について 音質補正について ライブミックスについて、映像シンクとバランスのやり方
【後期】 37～40回目	バランスの取り方、マルチチャンネルのバランス マスターレベルについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	Pro Toolsを実践で使えるようになるための授業です。アシスタントエンジニアに必要なPro Toolsの技術習得を目指しましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	PC応用		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴：30年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め、現在に至るまで作曲や、楽曲のプレゼン、楽曲とコンテンツ（画像・動画等）を合わせた納品等を行う。				
授業概要					
GarageBand、Illustrator、Photoshop、Animate CC等、クリエイティブなソフトを使用方法を学ぶ。					
到達目標					
GarageBand、Illustrator、Photoshop、Animate CC等のソフトの使用方法的の習得。 デザイン能力向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	GarageBandを使用してDTM用語の説明 GarageBandを使用して「おじいさんのい古時計」を使用して打ち込み GarageBandを使用して「Ellie My Love」「Jupiter」を使用して打ち込み
【前期】 6～10回目	Illustratorを使用してトレース作業 Excelを使用して納品書作成作業
【前期】 11～15回目	Excelを使用して1週間24時間スケジュール表作り GarageBandを使用して自由曲の打ち込み
【前期】 16～20回目	GarageBandを使用して映像に音楽をつける Illustratorを使用して間取り図の作成
【後期】 21～24回目	PowerPointの機能説明 PowerPointを使用して自分の好きなテーマで作品を作成
【後期】 25～28回目	PowerPointを使用して作品を発表 Photoshopを使用してペイント
【後期】 29～32回目	Photoshopを使用して複製 Photoshopを使用してコピー＆ペースト
【後期】 33～36回目	Photoshopを使用して変形 Photoshopを使用して作品の製作
【後期】 37～40回目	Animate CCの使い方 Animate CCを使用して作品の製作
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年次に学んだ社会人として必要とされるPCスキルを発展させ、音楽業界で必要とされるPCスキルを楽しく学んでいきましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	レコーディング実習Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	86回（172単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA＆レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴：25年 レコーディングスタジオで7年間アシスタントとして多くのことを学び、その後レコーディングエンジニアだけではなく、5000人規模のライブ録音や50人規模のライブPAなど音を操る場で幅広く活動。				
授業概要					
実際にアーティストのレコーディング～MIX～マスタリングやアフレコ収録など幅広く学ぶ。					
到達目標					
業界水準レベルの技術の習得					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	スタジオのシステム、機材の名称の確認。 スタジオの用途、操作方法の確認 ミニキサーによる信号の流れ
【前期】 5～8回目	AUX、グループ、ダイレクトアウトの使い方の違い マイクセレクト・マイキングについて 実際にコンソール機材を操作しながらレコーディング作業
【前期】 9～16回目	ドラムのセッティングを学ぶ。 ギター・ベースのセッティングを学ぶ コンソールのEQ・コンプの使用方法について
【前期】 17～24回目	トークバックについて レコーディング準備プランニング レコーディングシュミレーション
【前期】 25～38回目	レコーディング準備プランニング レコーディングシュミレーション 各楽器ダビング方法
【後期】 39～50回目	ボーカルレコーディング レコーディングした曲を使って、Protoolsでのエディット、プラグインを学ぶ。 ミックスダウンの仕方・流れ
【後期】 51～62回目	ライブレコーディングのシステム 合同授業にてライブレコーディングのシュミレーション・録音 ナレーション録音
【後期】 63～72回目	効果音制作 BGM制作 アフレコ収録
【後期】 73～86回目	アフレコ編集 マスタリング事情
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年次の基礎を活かし、2年次では実践形式で授業を進行します。プランニング・セッティング・マイキング・Pro Toolsのオペレート・サウンドメイキング・ミックス等の作業を繰り返し行い技術を習得しましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	PA実習Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	86回（172単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ P A&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ホールの構造について 各器材、電源の入れ方について メインスピーカーの構造について チャンネルディバイダーについて
【前期】 5～8回目	パワーアンプのチャンネル割り当てについて スピーカーチェックの仕方について デジタルミキサーのレベルの取り方について
【前期】 9～16回目	デジタルミキサーの各チャンネルのチェックの仕方について デジタルミキサーの各チャンネルのEQについて デジタルミキサーのコンプレッサー・ノイズゲートについて
【前期】 17～24回目	デジタルミキサーのアウトプット設定について デジタルミキサーのグラフィックイコライザーについて
【前期】 25～38回目	3人編成を想定したアーティストのセッティング・チェック シンガーソングライターを招いたオペレート実習 モニター卓の役割について
【後期】 39～50回目	メイン卓とモニター卓の音声信号分岐について モニター卓を使ったセッティング方法について メイン卓とモニター卓を使用した際のチェックの仕方について
【後期】 51～62回目	モニタースピーカーチューニングについて 5人編成を想定したアーティストのセッティング・チェック
【後期】 63～72回目	5人編成のアーティストを招いたオペレート実習 ライブレコーディングについて
【後期】 73～86回目	メイン卓・モニター卓・ライブレコーディングのパターンで行われる際の音声信号分岐について ライブレコーディング実習
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	2年次ではデジタル機材を中心にPAを学んでいきます。1年次よりも音に注視した授業内容なので、実際に自分で音を出して、自分の耳を鍛えましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	レコーディング実地演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習	必修
授業時間	180分 (1単位時間45分)	年間授業数	8回 (32単位時間)	2 年次
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA&レコーディングコース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐			
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。			
授業概要				
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。				
到達目標				
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。				

授業計画・内容	
1回目	学校法人イーエスピー学園主催イベント①
2回目	ポストプロダクション企業見学
3～7回目	学校法人イーエスピー学園主催イベント②～⑥
8回目	Inter BEE見学
評価方法	平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布